



おもちゃを診断する田村院長(右)

壊れたおもちゃ直しませんか

12月15日、壊れたおもちゃを修理するボランティア「つがるおもちゃ病院」(田村修二院長)がしゃこちゃん温泉で開院しました。今後、毎月第3日曜日の13時30分~15時30分に開かれ、養成講座を修了したおもちゃドクター11人が、ラジコンカーや電子ゲームなどおもちゃ全般を無料で修理します(部品・電池代は実費負担)。初日からいろいろな種類のおもちゃが持ち込まれ、ドクターは持ち主から遊び方を聞きながら構造を把握。壊れた部分を見つけ出し、丁寧に修理していきました。

三浦素靖君(3歳)は、足が折れてしまった歩く犬のぬいぐるみを抱え来院。約1週間の入院で直る見込みで、素靖君は「早くまた一緒に遊びたい」と期待していました。

「農山漁村の宝」に認定

東北農政局が地域活性化の優良事例を選定する令和元年度の「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」に、稲垣「藁の会」(野崎克行会長)が選ばれました。

稲垣「藁の会」は、新しい稲わら文化の創造を目指して平成16年4月に発足しました。現在の会員数は12人。旧稲垣西小校舎を活用したフォーラム稲西「わの学校」を拠点に、伝統的な稲わら文化の伝承活動、新しいわら工芸の創作や体験交流など幅広い活動を行っています。

12月16日、野崎会長らが福島市長に受賞の喜びを報告。野崎会長は「わらでも注目すると光るものがある。これからも地域の稲わら文化を伝えていきたい」と話していました。



受賞を報告した野崎会長(左から2人目)と会員ら



認定証を受けた(左から)石澤さん、平田君、工藤さん

児童がふるさと検定に挑戦

12月22日、NPO法人つがる野文庫の会(長谷川勝則理事長)による「子ども♡ふるさと検定」が市立図書館で開催され、市内の小学3~6年生27人が、つがる市についての知識を競い合いました。

検定は〇×式で実施され、「つがる市のネブタまつりは7月下旬に県内で一番早く行われる」、「遮光器土偶は明治20年に見つかった」といった、地域の歴史や文化などに関する50問を出題。採点の結果、稲垣小6年の平田瑛斗君と石澤芽依さん、森田小4年の工藤穂乃さんの3人が、70点以上に贈られる認定証を授与されました。最高得点だった平田君は「問題は難しかった。1位を取れて不思議な感じ」と笑顔で話していました。

図書館でクリスマスジャズライブ

つがる市立図書館・友の会(川嶋大史会長)による「クリスマスジャズライブ」が12月23日、市立図書館で開催され、ドラマーの葛西和明さん(木造)ら県内のジャズ奏者4人が、来館者に心地よいバンド演奏をプレゼントしました。

今回で3回目となるこのイベントは、12月の休館日を利用して静かな図書館ではありえないライブ空間が楽しめる特別企画。第一部では、もりた保育園の年長児15人を招待し、みんなが歌える「あわてんぼうのサンタクロース」など5曲を演奏。第二部では大人60人が来場し、クリスマスソングのほか、ジャズの定番やヒット曲のジャズアレンジなど8曲が披露され、来場者は体を揺らしながら楽しんでいました。



園児らにクリスマスジャズをプレゼント

希望に満ちた一年に

1月6日、「つがる市新年祝賀会」が松の館で開催され、市民ら約220人が令和最初となる新春の門出を祝いました。

年頭のあいさつでは、福島市長が令和元年の市政等を振り返り「様々な政策課題は少しずつ着実に前進していると感じる。次世代に繋げるまちづくりに向け全力で取り組みます」と力を込めました。

祝賀会には多くの来賓も出席し、木村次郎衆議院議員と三橋一三県議会議員が祝辞。宮本純一商工会長の発声で乾杯したあと、出席者は新年のあいさつを交わしていました。

また、ステージでは童謡「蕾の会」による合唱が登んだハーモニを響かせ、式典に花を添えました。



出席者へ福島市長が年頭のあいさつ

一年の交通安全を願う

つがる地区交通安全協会(片山徳明会長)は1月6日、一年の交通事故ゼロを祈る交通安全祈願祭を三新田神社で執り行いました。

祈願祭には福島市長、大友明夫つがる警察署長をはじめ、つがる地区安全運転管理事業主会、安全運転管理者協会、交通安全母の会連合会、地区交通指導隊の代表者ら14人が出席。神事では、宮司の祝詞奏上に続いて、参加者が市民の安全を願いながら神前に玉串をささげました。

最後に片山会長は「年頭の穏やかな天気にあやかって、交通事故の無い明るいまちづくりを推進していきたい。ご協力をお願いします」とあいさつしました。



神前に頭を下げる交通安全関係者

成田優碧さんの標語が全国1位

独立行政法人情報処理推進機構による「ひろげよう情報モラル・セキュリティコンクール」の標語部門で、成田優碧さん(森田中2年)の作品「『とくめい』が自分の良心まどわせる」が、全国の小中高生から寄せられた47,226点の中から最優秀賞に選ばれました。成田さんの作品は、SNS(会員制交流サイト)上で匿名による他人への誹謗中傷が後を絶たないことを憂いたもので「匿名を盾にせず、自身に立ち返って相手の気持ちを考えられる良心を取り戻して」という思いが込められています。

1月14日、成田さんらが福島市長を訪ね受賞の喜びを報告。成田さんは「最優秀賞は本当にびっくり。誹謗中傷が少しでも減ってくればうれしい」と話していました。



成田優碧さん(左)と森田中の小西先生

警察活動への協力に感謝

令和元年警察協力功労者感謝状贈呈式が1月16日、松の館で開催され、地域での交通安全抑止活動や鑑識活動などに貢献した市内の6団体、個人8人に感謝状が贈られました。

式では、大友明夫つがる警察署長が出席者に感謝状を手渡し「皆さまのご協力を賜りながら、つがる市の安全安心のため責務を果たす所存です」と式辞を述べました。また、8人の優良警察職員も表彰されました。警察協力功労者は次のとおりです。

団体＝イオンモールつがる柏、小笠原建設、シュープラザアクロス柏店、トーオ開発、ジャムフレンドつがる柏店、森田中学校 JUMPチーム **個人**＝小野進、片山勝明、木村輝子、工藤幸司、古坂隆志、手嶋成信、新岡秀行、野呂民治



感謝状を受け取る森田中JUNPチームのメンバー